

音楽科学習指導案

令和6年6月14日(金) 学習指導Ⅲ 第5学年3組(第2音楽室) 指導者 紺野 伶音

【題材】音の重なりを味わおう (A表現(1) ア, イ, ウ(ウ)(2) ア, イ(ア), ウ(ウ) B鑑賞(1) イ)

考察	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
育成を目指す資質能力	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音の重なりとの関わりについての理解 ・互いの声や音を聴き合いながら, 声や音を合わせて歌ったり演奏したりする技能 	<ul style="list-style-type: none"> ・音の重なりの特徴を生かしながら, 曲想に合わせて演奏することについて思いをもつ力 ・曲想と音の重なりとの関わりから, 曲全体を聴き深める力 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音の重なりとの関わりについて関心を持ち, 進んで音を重ねて表現したり聴いたりしようとする態度
子どもの実態	<ul style="list-style-type: none"> ・2つの旋律の重なり方に違いがあることを理解し, 歌ってきている。 ・複数の音が重なり合う響きを聴き取ることが難しいため, 音の重なり方の違いに気付き, 表現に生かすことに困難さがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2つの旋律の重なり方の違いや特徴を生かしながら, 歌詞や曲想に合わせて歌うことについて思いをもってきている。 ・曲想と複数の音の重なりとを結び付けて聴くことが難しいため, 曲全体を聴き深めるまでに至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と2つの旋律が重なり合う響きの面白さに関心を持ち, 意欲的に歌ってきている。 ・複数の音を重ねて演奏したり, 聴いたりする経験が少ないため, 複数の音の重なりが生む響きの魅力に気付いていない。
価値	<p>・多くの音楽は, 音を重ねて作られており, 音の重なり方の違いによって, 様々な響きや曲想の変化が生まれる。『いつでもあの海は』は, ユニゾンの部分と追いかけて合う部分, 同じリズムで違う音で重なる部分という音の重なり方を用いて作られている。音の重なり方の違いによって表現を変えながら歌うことで, 音の重なりと曲想との関わりに気付くことができる。『小さな約束』では, リコーダーで主旋律と副旋律を重ねて, 音を合わせて演奏することで, 音が重なり合う響きを実感できる。『アイネ クライネ ナハトムジーク 第1楽章』は, 曲想の変化を捉えやすい曲である。場面ごとに曲想を比較しながら聴くことで, 曲想の変化を感じ取ることができる。また, 感じ取ったことと聴き取ったことを結び付けることができるように, 音の重なり方に着目しながら図形楽譜で鑑賞することで, 曲想が変化したところで音の重なり方も変化していることを実感できる。そして, 音の重なり方の違いによって曲想が変わったり, 響きが生まれたりする魅力を味わうことができる。題材を通して音の重なりの魅力に気付くことで, 聴き方が変わり, これから出会う曲でも音の重なりに着目して味わって聴いたり, 音が重なり合う響きの美しさを感じ取りながら合唱や合奏をしたりすることができるようになる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音の重なり方の違いによる表現や曲想の違いを考えることは, 曲想と音の重なりとの関わりを捉えることにつながり, 互いに聴き合いながら声や音を合わせて表現できる。また, 曲想と音の重なりとの関わりを理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感じ取った曲想の理由について, 図形楽譜を手掛かりに音の重なりと結び付けながら考える中で, 感じ取った曲想が変わると音の重なり方も変わることに関心, 自分にとっての音の重なりのおよび美しさを見だし, 曲全体を聴き深め, 味わって聴くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現と鑑賞を通して, 音の重なり方の違いによる表現や曲想の違いについて, 繰り返し考えることにより, 声や楽器の音の重なりを実感することができ, 音が重なり合うことで生まれる響きや美しさを味わうことができる。
見・考・ね	音楽に対する感性を働かせ, 音楽を音の重なりとその働きの視点で捉え, 自己のイメージや感情と結び付けて表現したり聴いたりすること。		
今後の学習	5年「いろいろな音の楽器を重ねると」において, 曲想と様々な楽器の音の重なりとを結び付け, 鑑賞する学習へと発展していく。		

指導と評価の計画

目標	曲想と音の重なりとの関わりを聴き取り、声や音を合わせて表現したり、音の重なりによさや美しさを味わったりできる。		
評価 規準	(①知・技) 曲想と音の重なりとの関わりを理解し、互いの声や音を聴き合いながら、声や音を合わせて歌ったり演奏したりしている。 (②思・判・表) 曲想に合わせて音の重なりを生かして表現を工夫したり、音の重なりによさや美しさを味わって聴いたりしている。 (③主体的態度) 曲想と音の重なりとの関わりについて関心を持ち、進んで音を重ねて表現したり聴いたりしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
であう	1	○『アイネ クライネ ナハトムジーク』を聴いたり、『いつでもあの海は』を聴いたり歌ったりして、学習のめあてをつかむ。 — 学習のめあて — 音の重なりの魅力を見付けよう	○音の重なり方の違いによる曲想の変化を感じ取れるように、場面ごとに聴いたり歌ったりして曲想を比較する時間を設定する。
追求する	2	○『いつでもあの海は』を二部合唱する。	○音の重なり方の違いによる表現の工夫を考えることができるように、音の重なり方の違いを拡大譜に整理する。
	1	○『小さな約束』をリコーダーで演奏する。	○音が重なり合う響きに気付くことができるように、少人数で演奏し、互いに聴き合う機会を設定する。
	1	○『アイネ クライネ ナハトムジーク』の曲想を感じ取りながら聴く。	○曲想が変化することに気付けるように、全曲を通して聴いた後、場面ごとの曲想を比較しながら鑑賞する機会を設定する。
	1	○『アイネ クライネ ナハトムジーク』の感じ取った曲想と音の重なりとを結び付けながら聴く。(本時)	○感じ取った曲想の理由となる音の重なりに着目できるように、曲想と音の重なりを結び付けて考えることができる思考ツールを用意する。
・ま 生と かめ する	1	○題材を通して気付いた音の重なりの魅力をまとめる。	○音の重なり方の違いによって、曲想が変化したり響きが生まれやすくなるという魅力を実感できるように、鑑賞で気付いたことを生かして、再度合唱や合奏をする機会を設定する。
			◇音の重なりに関心を持ち、音の重なり方の違いによる曲想の変化について発言や記述をしている。 <発言・記述③> ◇曲想と音の重なりとの関わりに気付き、声を合わせて歌ったり記述したりしている。 <歌唱・記述①> ◇音が重なり合う響きを聴き取りながら演奏したり、曲想と音の重なりとの関わりについて記述したりしている。 <演奏・記述①> ◇感じ取った曲想の変化を発言したり記述したりしている。 <発言・記述②> ◇感じ取った曲想と音の重なりとを結び付けながら、気付いたことを発言したり記述したりしている。 <発言・記述②> ◇音を重ねることの魅力を感じ取って演奏したり、記述したりしている。 <歌唱・演奏・記述③>

本時の学習（6／7時間目）

ねらい 図形楽譜を手掛かりに、感じ取った曲想の理由となる音の重なりについて話し合う活動を通して、曲想と音の重なりとの関わりを見だし、味わって聴くことができる。

評価項目 **感じ取った曲想と音の重なりを結び付けながら、気付いたことを発言したり記述したりしている。** <発言・記述②>

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点
<p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <p>・前回の最後に、いくつかの友達のペアの気付いたことを聞いたら、自分たちと違うことを感じ取っていることや、新たな音の重なりとのつながりに気付いたのだったな。もっと他のペアの気付いたことも知って魅力を見付けたいな。 (目的意識)</p>	<p>○様々なペアと感じ取った曲想やそれを生み出している音の重なりについて共有し、自分たちのペアの聴き方を深めていくという本時の見通しをもてるように、前時に友達の感じ取った曲想とその理由を聞いて気付いたことやさらに知りたいことを問いかける。</p>
<p>めあて：他のペアが感じ取ったこととその理由を聞き、曲の魅力を見付けよう</p>	
<p>2 感じ取ったこととその理由を様々なペアと伝え合う。</p> <p>・私たちは、イの場面は、アの場面と比べて、伴奏にバイオリンが滑らかに重なっているから、優雅な感じで、貴族たちが演奏会を聴きながらお茶を飲んでいる様子だと想像したよ。でも、友達のペアはイの場面は、パーティーを楽しんでいる感じと書いているね。理由を知りたいな。</p> <p>・友達から、伴奏のパートが3つあり、3つの楽器の音が同じリズムで重なっているから、貴族たちがワクワクしながらパーティーを楽しんでいる感じがしたと説明してもらったよ。もう一度、その場면을聴いてみよう。</p> <p>・聴いてみたら、確かに3つの楽器が同じリズムで重なっていることが分かったよ。でも、どうしてワクワクする感じにつながるのかな。友達に質問してみよう。</p> <p>・友達に聞いたら、3つの楽器が細かいリズムで重なって、にぎやかになっているからワクワクして楽しんでいる感じと教えてくれて納得できたな。友達が見付けた音の重なりカードを送ってもらって付け足そう。</p> <p>・バイオリンが滑らかに重なっているから優雅な感じを想像していたけど、3つの楽器が同じリズムで重なっているから、楽しい感じも納得することができたよ。他の場面も音の重なりから新しい魅力に気付いたよ。 (目的を達成した意識)</p> <p>3 本時の学習の振り返りをする。</p> <p>・音の重なり方が違うと、響きが変わって、その響きによって曲想が変わることが分かったよ。音の重なりを生かしてもっといろいろな曲で合唱したり合奏したりしてみたいな。</p>	<p>○聞きに行きたいペアを自分たちで選ぶことができるように、ロイロノートの提出箱で共有された思考ツールを見ながら、自分たちとは違う理由を書いているペアを探すよう促す。</p> <p>○感じ取った曲想とその理由を結び付けて伝えることができるように、互いに説明し合う際に、図形楽譜の音源を流す担当と、思考ツールを用いて説明する担当に分かれるよう伝える。</p> <p>○他のペアが感じ取った曲想とその理由に対して、共感できることや、疑問に思うことに気付くことができるように、説明してもらった箇所をロイロノート上に配付されている図形楽譜の音源で再度聴くよう促す。</p> <p>○自分たちだけでは感じ取れなかった曲想や聴き取れなかった音の重なりを自分たちの気付きと結び付けることができるように、音の重なりについて記述したカードを子ども同士で自由に送り合えるようにし、必要に応じて自分たちの思考ツールに付け足していくよう促す。</p> <p>○自分たちのペアの想像が深まったり、新たな音の重なり方に気付いたりできたことを実感できるように、最初の思考ツールと比較して、考えが増えたり広がったりしたことを問いかける。</p> <p>○曲想と音の重なりとの関わりに気付けたことを実感できるように、友達のペアと図形楽譜を手掛かりに音の重なり方の違いについて話し合えたことを称賛する。</p>